

山亦偶鳴。山僧傳言斯鳥鳴則山中宿德僧出。弘法大師性靈集有三寶鳥之詩。然斯詩弘法住河內國高貴山時所賦之也。

〔日光山志〕四慈。悲。心。鳥。此鳥當山にて別に名あることを聞ず。唯其喚呼するを以て名に稱するにて。佛法僧鳥と名附るが如き歟。初夏の頃よく聲を發せり。此山中にかざらず。荒澤寂光又は栗山邊にも多く栖る由時として御山内へも廻翔し來り鳴ことあり。人家多き所へは來ること稀なり。足の前後二本宛にわかれたり。羽色等圖の如し。略圖かたちは鵲程の鳥なり。おのれ孟植田先に榛名山へゆきて。社家の家に舍りしに。あるじが話れるに。當山に三寶鳥。戒行鳥などすめり。三寶鳥は啼こと稀なり。戒行鳥は夜更てなけりといひしかど。春はやく行しゆる啼す。其戒行鳥といへるは慈悲心鳥なりと。舍のあるじが話れり。

〔本草和名〕十五雄鵲一名飛駁楊玄操音種角一名神女雀一名嘉賓一名鳴音一名鵲音卑已上四飛駁馬泥腦也出墨和名加佐々岐。

〔倭名類聚抄〕十八鵲飛駁馬本草云。鵲且略反和名飛駁馬泥。鵲腦名也。

〔箋注倭名類聚抄〕七名。新修本草獸禽部中品雄鵲條。陶注云。五月五日。鵲腦入術家用。一名飛駁。無馬泥之名。按本草和名雄鵲條云。飛駁馬泥腦也。出墨子五行記。則知源君從本草和名引之。誤。五行記爲本草也。按說文作。𪗇。云誰也。象形。又載誰。篆文。𪗇。从佳。𪗇。是鳥誰字本作。𪗇。借爲。𪗇。屨。爲借義所專。別作誰以避之。俗又變。佳从鳥作鵲。李時珍曰。誰鳥屬也。大如鴉。而長尾。尖背。黑爪。綠背。白腹。尾翻。黑白駁雜。上下飛鳴。以音感而孕。以視而抱。

〔類聚名義抄〕九鵲。今正。七爵反。カサ、ギ、カラス。

〔和爾雅〕六鵲喜鵲飛駁鳥並同。

〔書言字考節用集〕五鵲氣形鵲段成式云。鵲有隱巢木。如梁。令。鵲。鵲。喜鵲。本名。乾鵲。喜鵲。時珍云。鵲能報喜。故謂。喜鵲。本名。乾鵲。喜鵲。又知來歲風多集。